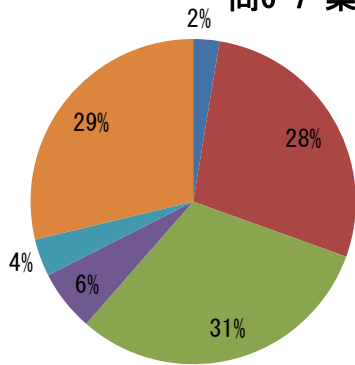


9. 小規模メタンとディスポーザーの新たな取り組みについて

集排施設と連携した小規模メタン化施設の新たな取り組みについて、興味があると答えたのは30%。一方、37%は興味がないと回答した。

なかなかリサイクルが進まずコストがかかっている家庭生ゴミの再生利用について、既存の管路とディスポーザーを活用するアイデアがあることから、ディスポーザーの導入状況を聞いたところ、積極的に推進しているのは1%で、52%は設置不可としている。理由としては、処理施設の負荷増大等があげられている。

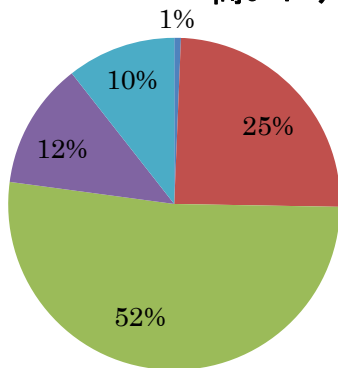
問6-7 集排施設と連携した汚泥や一般廃棄物の処理コストの低減するメタン化施設に興味がありますか



回答市町村数：459

a. とても興味がある	12	3%
b. 興味がある	128	28%
c. 興味がない	142	31%
d. 全く興味がない	28	6%
e. その他	17	4%
f. わからない	132	29%
459		

問6-4 ディスポーザーの設置の推進をしていますか



回答市町村数：463

a. 積極的に設置を推進	3	1%
b. 設置希望があれば設置可能(自然体)	114	25%
c. 設置不可(原則、設置を認めていない)	240	52%
d. その他	57	12%
e. わからない	49	11%
463		

農業集落排水施設の可能性

- 農集排施設の目的は、農村の汚水処理により、生活環境を向上させ、農業用水の水質を確保し、加えて処理水の再利用、汚泥の肥料化等により、地域ぐるみの資源循環型社会を構築。（資源循環促進計画）
- 地域の創意工夫のある取組が展開される中で、集落排水施設と連携したメタン発酵は可能性のあるのではないかと。集排汚泥を液状のままメタン発酵して、液肥とエネルギーを得ることが可能。

既存の農業集落排水施設と連携した小規模メタン発酵施設

— 最適システム検討の上で農業集落排水施設との連携という1つの選択肢（6つのメリット） —

